

ペンのはじまり



ペンのはじまりは骨やぞうげで作られ、棒や針の形をしていました。それをローマ人はスティルと呼んでいました。アシの莖にインキをつけて書くようになったのは、羊皮紙などの紙が使われるようになってからのことです。その後1818年にイギリスのペリーが羽根ペンに金箔をかぶせました。また1929年にワットがペン先に穴をあけたり切り目を入れて柔軟性を持たせるようになってからどんどん新しく改良されていきました。軸にインキを含ませてあるマジック・ペンのようなものが作られたのはごく最近のことです。フレーベル館のキダーカラーペンは、中でも幼児用に作られた最も新しいものです。

キダーカラーペンは10色（黒・赤・緑・黄緑・紫・橙・青・水・茶・黄）1組でビニールケース入りです。水溶性ですので蒸発によりかけなくなることはありません。また、水による効果を生むことができ、肌や衣服についても簡単に洗いおとすことができます。ほかにインキの入れかえができるなど多くの特長をそなえています。

定価 500円 発売フレーベル館